

社会資本総合整備計画（市街地整備） 事後評価書

平成28年3月29日

計画の名称	コンパクトなまちづくりを進め、中心市街地のにぎわいの再生・創出と安全安心なまちづくりを実現する。			
計画の期間	平成22年度～平成26年度（5年間）			
計画の目標	<p>総合計画で位置づけられた3駅プラスワンのまちづくり都市核としてコンパクトでまとまりのあるまちづくりを進めるため、都市計画マスタープラン、都市交通マスタープラン、総合交通戦略等を策定した。都市構造として、二酸化炭素排出量の低減を図るとともに、駅周辺に人を誘導することにより、交流人口も呼び込み、中心市街地のにぎわいの再生・創出を図る。併せて、防災機能等を向上させ安全安心で、快適なまちづくり施策をすすめることにより、住みたいまちとして選択され定住者の増加を目指す。既に動きだしている施策としては、既存の中心市街地では、駅周辺区画整理事業を実施し、駅前商業集積を予定し、併せて、隣接する既存市街地についても区画整理に向けた動きを続けている。また、新駅周辺では、土地区画整理事業により、新市街地整備を進めており、地域住民と一体となったまちづくりへの取り組みも進めており実現に向けた機運が高い。</p>			
計画の成果目標(定量的指標)	定量的指標の現況値及び目標値			
	当初現況値 (H22当初)	中間目標値 (H24末)	最終目標値 (H26末)	
・幸田駅、新駅の中心市街地における歩行者自転車交通量を1,564人/日(H21)から2,000人/日(H26)に増加	1,564人/日	1,800人/日	2,000人/日	
・減少傾向に転じた町内の駅合計の乗降客数を5,296人/日(H21)から5,450人/日(H26)に増加	5,296人/日	5,350人/日	5,450人/日	
・町全体での住民意識調査において、幸田町の住み心地満足度は83.5%(H21)と高い数値となっている。しかし、近年進む新市街地供給により、コミュニティ形成がうまくされないことなどの理由から、新市街地の新住民が「住みにくい」と感じるまちが形成され、この住み心地満足度が低下することが予想される。しかしながら、コミュニティ形成や、安全安心につながる施策を実施することにより、新市街地においても、「住みやすい」まちを実現していき、住み心地満足度85.0%を目指す。	83.5%	83.5%	85.0%	
・全国的に人口減少が始まる中、町内人口を37,432人(H22)から38,432人(H26)へ1,000人の増加	37,432人	37,932人	38,432人	
・町営のパークアンドライド駐車場における町外の定期利用者数を39台(H22)から80台(H26)に増加させることにより、名古屋、刈谷方面等へ長距離自動車通勤している方の鉄道利用への転換を誘導する。	39人	40人	80人	
事後評価				
○事後評価の実施体制、実施時期				
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期			
・幸田町で実施	・事業終了後(平成27年度)			
	公表の方法			
	・幸田町のホームページに掲載			
交付対象事業				
A 基幹事業				
番号	事業種別	事業者	対象事業	事業の内容
1-A-1	都再区画	幸田町	幸田駅前土地区画整理事業	都市再生区画整理
1-A-2	交通	幸田町	都市交通システム整備事業	新駅駅舎及び自由通路設置
1-A-3	都市再生整備計画	幸田町	相見地区都市再生整備計画事業	駐車場、道路、公園、広場シェルター等
1-A-5	公園	幸田町	都市公園事業	幸田中央公園用地
B 関連社会資本整備事業				
番号	事業種別	事業者	対象事業	事業の内容
1-B-1	道路	幸田町	道路整備事業(町道坂崎野場1号線)	道路改築
C 効果促進事業				
番号	種別	事業者	対象事業	事業の内容
1-C-1	公共交通	幸田町	地域バス整備事業	バス車両の購入
1-C-2	施設整備	幸田町	保育園施設整備事業	わした保育園の園舎増築
1-C-3	施設整備	幸田町	小学校地震補強事業(新駅エリア)	幸田小、坂崎小 外壁落下防止、強化ガラスサッシ交換
1-C-4	施設整備	幸田町	小中学校地震補強事業(幸田駅エリア)	中央小、豊坂小、幸田中 外壁落下防止、強化ガラスサッシ交換
1-C-5	施設整備	幸田町	小学校教室等整備事業	幸田小学校の校舎内部改修 (教室2室増・職員室拡張)
1-C-9	施設整備	幸田町	防犯カメラ整備事業(新駅周辺)	防犯カメラの設置
1-C-11	普及促進	幸田町	電動アシスト自転車購入補助事業(新駅エリア)	購入費の補助
1-C-13	施設整備	幸田町	幸田駅西第2駐車場整備事業	パーク&ライド駐車場の拡張
1-C-14	調査設計	幸田町	区画整理促進調査	組合設立準備 岩堀・六栗・深溝里
全体事業費				4,802百万円

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況						
I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況		<ul style="list-style-type: none"> 幸田駅前土地区画整理事業や新駅及び新駅周辺整備を行った結果、にぎわいの創出を図ることができ幸田駅及び新駅の中心市街地における歩行者自転車交通量が増加した。 都市交通システム整備事業により駅舎及び自由通路の設置を行い、駅の利用者が増えたため町内全駅の1日平均乗客数の合計が増加した。 都市公園事業や土地区画整理事業等により公共施設整備を進め、住民意識調査における住み心地満足度が向上した。 相見地区都市再生整備計画事業により新駅周辺の公共施設整備や基盤整備を行った結果、町内人口が増加した。 相見地区都市再生整備計画事業により駐車場やアクセス道路の公共施設整備を行った結果、町営パークアンドライド駐車場の町外の定期利用者が増加した。 				
II 定量的指標の達成状況		指標① (幸田駅、新駅周辺の歩行者自転車交通量)	最終目標値	2,000人/日	目標値と実績値に差が出た要因	駅周辺整備に対して積極的に取り組んだ結果、駅利用者が増加し、中心市街地のにぎわいの創出が図られ、目標値を上回る実績値となった。また、駅を通勤利用する朝夕だけでなく、昼間の時間帯においても増加傾向にある。
			最終実績値	3,190人/日		
		指標② (町内全駅の1日平均乗客数の増加)	最終目標値	5,450人/日	目標値と実績値に差が出た要因	土地区画整理事業に加え、駐車場、駐輪場等の駅周辺整備に対して積極的に取り組んだ結果、交通の利便性が向上し、目標値を上回る実績値となった。
			最終実績値	6,178人/日		
		指標③ (住民意識調査による住み心地満足度の増加)	最終目標値	85.0%	目標値と実績値に差が出た要因	本事業により町全体において、住民の住み心地満足度の向上のための施策や事業に取り組んだため目標値を上回る実績値となった。
			最終実績値	88.8%		
		指標④ (町内人口の増加)	最終目標値	38,432人	目標値と実績値に差が出た要因	新駅周辺整備等により特に新駅周辺エリアにおいて人口が順調に増加したため、目標値を上回る結果となった。
			最終実績値	39,461人		
		指標⑤ (町営パークアンドライド駐車場の町外の定期利用者数の増加)	最終目標値	80人	目標値と実績値に差が出た要因	平成26年度末時点では目標値である80人には達しなかったが、平成27年12月時点では83人となり、増加傾向にある。
			最終実績値	67人		
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況		<ul style="list-style-type: none"> 新駅周辺地区(相見地区)の居住人口の増加については、1,045人(H22当初)から2,301人(H26末)となり、大きく増加した。 わした保育園園児数については、定員130人・入所園児数118人(H22当初)から定員185人・入所園児数176人(H26末)となり、順調に増加した。 駅周辺整備により交通結節機能が強化され、安全安心で快適な居住環境の形成等の課題が改善された。 				
3. 特記事項(今後の方針等)						
<ul style="list-style-type: none"> 土地区画整理事業等の継続事業の進捗を図り、まちづくりを推進する。 モビリティマネジメント等の実施による公共交通施設の利用促進を図ることにより、環境にやさしく誰もが自由に移動できる交通体系を構築し、更なる交通の利便性の向上を目指す。 人口増に見合う公共施設整備を行い、都市基盤の適切な維持管理により良好な居住環境の保全を図る。 地元行政区等を母体とした地域コミュニティ活動の発展・継続を図る。 						